



第27回原子力安全文化有識者会議での ご意見・ご提言への対応状況

2022年10月14日
中国電力株式会社

■ 前回の有識者会議でいただいた意見・提言については、以下のとおり対応している。

【点検不備問題に係る再発防止対策に関するもの】

意見・提言	対応状況
<p>■ 不適合管理プロセスの運用においては、「包み隠さずできているか」「全員が参加しているか」が大事であり、事象そのものの対策だけで終わらせるのではなく、その背後に隠れている心理的要因への対策までできるかが大事である。</p>	<p>■ ご意見も踏まえて、不適合管理プロセスの運用を通じて、その背後にある安全文化の共通的要因を把握できるよう、CR(※)情報に対して「安全文化10特性」で分類するよう検討しています。</p> <p>(※)状態報告(Condition Report)の略で、不適合と思われる事象に限らず、顕在化していない懸念段階の事項も含む。</p>
<p>■ コロナ禍にあっても、工夫して住民の方々との関わりの機会を維持されていることに、中国電力のこだわりの姿勢を見るような気がした。一つひとつ大変丁寧に尽力され、対応されていることも十分にうかがえる。ぜひ今後も継続してほしい。</p>	<p>■ ご指摘の点について、本取組みの重要性を社員一人ひとりが十分認識したうえで、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、引き続き、お客さま視点の価値観を認識する機会の拡大に努めます。</p>

【原子力安全文化意識調査に関するもの】

意見・提言	対応状況
<ul style="list-style-type: none"> ■ 9割の人が肯定的な意見を回答した結果を、「9割の安心」と捉えるのか、それとも「1割の不安」と捉えるのかということをもう一段深く掘り下げた方が良いのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ご意見の視点も踏まえ、少数意見をくみ取った対策検討を行うことができるよう、具体的なアンケート内容や分析手法について、次回の調査に反映するよう検討しています。
<ul style="list-style-type: none"> ■ 安全については、「8割や9割で意識が高い」ということではない。発電所に関わる何千人のうちの一によって不適切事案が起こるものである以上、ほぼすべての人が安全を意識してもらわないと、安全は絶対に実現しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ また、これまでのアンケート結果を踏まえ、発電所構内で働く者すべての原子力安全に対する意識をより一層高めるよう、協力会社を含めた安全文化醸成活動を展開していきます。

【安全文化醸成活動に関するもの】

意見・提言	対応状況
<ul style="list-style-type: none"> ■ 2号機の原子炉設置変更許可が出され、大きな山を一つクリアした状況の中、それぞれの社員が色々な思いを持って、中には非常にストレスを抱えた方もいるだろうし、そうすると必然的にたがが緩むようなことが起こるのではないかと思う。これからまだ作業が残っているのだから、たがを締め直して、地域住民が不安にならないように対策を講じてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 安全文化に関するアンケートを継続実施し、定点観察的に職場の状況や社員の意識を把握することで、変化の兆候を見逃さないようにします。 ■ また、発電所員だけでなく、本社や協力会社の社員も対象に役員との意見交換を実施するなどして、「風通しのよい組織」の実現に向けた取り組みを進め、発電所構内で働く者すべてが緊張感をもって進むべき方向性を一にするよう努めます。 ■ 原子力安全を最優先に、原子力安全文化を育成・維持するため、過去の不適切事案の学習・研修は引き続き実施していきます。
<ul style="list-style-type: none"> ■ 過去の失敗や不適切事案から学ぶことにより、安全に対する組織風土や安全文化の醸成につなげていくよう、今後も取り組みを継続してほしい。 	

【安全文化醸成活動に関するもの】

意見・提言	対応状況
<p>■ 中国電力と協力会社が現場で直接話をしてコミュニケーションを図り、信頼関係を築いたうえでの仕事が重要だと思うので、そのような対話の機会をより一層設けてほしい。</p>	<p>■ 協力会社とのコミュニケーションの改善を図るため、当社役員と協力会社社員との対話活動を実施するほか、協力会社のモチベーション向上のため、協力会社に対する表彰などの施策を継続的に実施するとともに、今後ご意見を勘案した施策も検討します。</p>

【再稼働に向けた対応に関するもの】

意見・提言	対応状況
<p>■ 2号機が再稼働したら、今までとは違うような不安や様々な問題等が生じることと思う。再稼働に向けた教育システムはきちんと整備されているとは思いますが、社員のメンタル面についても、きめ細かく気を配ってもらえるような仕組みを作ってほしい。</p>	<p>■ 日々の業務にあたっては、「健体康心(健やかな体と康らかな心)」が欠かせないことから、発電所の健康管理センターによる心身両面のサポートを行い、各職場の管理者と健康管理センターが連携を図りながら、引き続きメンタル面についてもきめ細かく配慮していきます。</p>

【広報活動・地域への対応に関するもの】

意見・提言	対応状況
<p>■ これから再稼働に向けて、地元の皆さんと顔を合わせて話をする機会がもう少し必要になってくるのではないかと。事務職の社員よりも、むしろ現場で働く運転員等の思いや決意といった点について話を聞くことができると、より地元の安心感につながっていくものと思う。</p>	<p>■ 技術系社員についても、従来と同様に、鹿島町全戸訪問、地元定例訪問(公民館等)への同行および発電所見学会対応等の取組みを通じて地域の皆さまとの対話活動を積極的に行ってまいります。</p>

【その他ご意見】

意見
<p>■ 有識者会議の場だけではなくて、もっと分かりやすい形で、地域住民が中国電力の取り組んできた原子力安全文化醸成活動について評価すべきである。</p>
<p>■ 社長なりトップの信念のようなものを簡単な言葉で分かりやすく訴えていくことは非常に大切である。</p>
<p>■ 中国電力の取組みの成果が地域住民に伝わらないと困るので、「これだけの手順を踏んできた」や「こういう理想に燃えています」等の内容ももっと盛り込むべき。</p>
<p>■ 原子力発電所へのテロ活動や火山噴火に伴う津波など最近の様々な事象に対する不安を和らげ、安心を与えてくれるような話を中国電力からしてほしい。</p>